

多様性の尊重

富士ソフトで活躍する外国籍社員

富士ソフトのグローバル
所属社員国数

17ヶ国

富士ソフトのグローバル
外国籍社員数

93名

当社では、17ヶ国、93名の外国籍社員が働いています。(2015年8月現在)日本人社員と異なる発想や視点を活かして活躍しています。一方で、様々な文化習慣を背景とした異なる価値観を持った外国籍社員達は、日本で働く目的も悩みも様々です。外国籍社員ならではの悩みも早期に解決できるよう、従来の社員相談窓口だけではなく、英語など他の言語でも相談できる社員窓口（Help desk for foreign employees）を設置しました。仕事を上での問題からプライベートの悩みまで、広く相談を受け付けています。また、日本語の文章では理解しにくい社内ルールやシステム、重要な教育は英訳版をリリースし、国籍問わず、共通認識が持てるよう配慮しています。さらに、自社ビルにイスラム教徒向けのお祈り部屋を設置して、イスラム教徒特有の「ワークライフバランス」に対応するなど、外国籍社員にとっても、いきいきと働ける職場づくりを目指しています。



お祈り部屋の風景（本社）

ものづくりを通じた人材育成支援

全日本ロボット相撲大会[®]

全日本ロボット相撲大会[®]

海外参加国数

9ヶ国

ロボット相撲とは、参加者の自作したロボットを力士に見立て、技術とアイデアで対戦相手のロボットを土俵から押し出す競技です。当社が主催する「全日本ロボット相撲大会[®]」は、国内最大規模のロボット競技大会であり、「ロボット作りを通して『ものづくり』の楽しさを知ってもらう場を提供する」ことを目的に、四半世紀に渡って途絶えることなく開催し続けてまいりました。2014年12月14日に開催した第26回大会では、全国9ヶ所の地区大会における984台のロボットの中から勝ち進んだ64台が、相撲の聖地である国技館で競い合い、優勝者には第26代横綱として、文部科学大臣杯と文部科学大臣賞が授与されました。



第26回大会に参戦した世界の強豪選手達

近年、当社が考案したロボット相撲大会は海を渡り、海外において「相撲ロボットの製作はロボットテクノロジーの習得に適している」と各国に高く評価されており、当社では各国で行われているロボット相撲大会を視察し、公認大会として認定してノウハウの提供を行っています。現在、確認できるだけでも、ヨーロッパ、アジア、北米、

中米、南米と17ヶ国でロボット相撲大会が開催されるほど世界的に普及しています。当社ではロボット相撲の教育的効果をより多くの方々に知っていただき、更なる普及と世界のロボットテクノロジーの向上を目的とした活動を展開しています。2014年度は、正式に第1回となる「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2014」を開催しました。世界9ヶ国（メキシコ・ブラジル・ペルー・コロンビア・トルコ・ラトビア・エストニア・ポーランド・モンゴル）から44台の相撲ロボット、98名の選手・関係者が来日、世界中が注目する熱い戦いが繰り広げられ、自立型ではラトビアが世界一に輝きました。2015年度は、14ヶ国から64台の相撲ロボット、200名の選手・関係者の来日が予定されています。

今後もロボット相撲大会を飛躍させ、さらに世界中の多くの皆様にロボット相撲を通じ「ものづくり」の楽しさを知り、ロボットテクノロジーを学ぶきっかけとしていただける様、尽力していきます。

※大会の詳細については公式HP（<http://www.fsi.co.jp/robot>）にてご覧いただけます。

「再生医療アカデミアモデル」提供開始

当社は、企業治験を行っている「インプラント型自己細胞再生軟骨」の研究で培ってきた経験とノウハウを活かし、大学発の再生医療研究の事業化を後押しする「再生医療アカデミアモデル」を考案し、サービスの提供を開始しています。

サービス内容としては、教育・訓練、研究・開発支援、産学連携支援、細胞凍結保管であり、大学の再生医療研究の事業化の障壁になっている様々な課題について、特定細胞加工物製造許可を取得している富士ソフトグループの富士ソフト・ティッシュエンジニアリング株式会社の細胞培養センターを使用し、非臨床試験から臨床試験までをワンストップサービスで提供することで解決するものであります。

再生医療については、2014年11月に再生医療等安全性確保法の施行により、規制が緩和され、再生医療関連産業の成長が促進されています。

当社では、大学発の再生医療研究が事業化され、新たな治療法の一つとして提供されるよう支援してまいります。



細胞培養センター(当社錦糸町ビル内)